

<被表彰者の功績概要>

(1) 教職員

① 岸根 美絵（三重郡川越町立川越北小学校 栄養教諭）

本県の学校栄養職員として着任以来、児童に対して、食生活の大切さや健康増進のための実践などについて、熱心に指導してきた。11年の行政経験で身に付けた幅広い豊富な知見を基に、自校の食育を推進するだけでなく、町内の小中学校の食に関する授業に積極的に取り組むとともに、近隣市町の栄養教諭等からの相談にも応じ、適切に指導・助言を行っている。特に隣町朝日町には年間を通じて指導・助言を行い、栄養教諭の育成や、小中学校の親子給食方式の円滑な立上げに寄与した。

令和3年度は、三重県の新規採用栄養教諭研修・6年次研修・中堅教諭等資質向上研修での講師を務め、栄養教諭の衛生管理責任者としての意識を高めるなど、三重県の栄養教諭の育成にも大きく貢献している。

② 村手 光宗（名張市立名張中学校 教諭）

本県中学校教諭として着任以来、深い生徒理解に基づく生徒指導、授業実践、部活動指導を重ね、目指す生徒像・学校像の実現に邁進してきた。平成30年、校区の小学校で学年全体の指導が非常に困難な状況に陥っていたところを、同教諭は当該小学校に何度も通い、教職員に対して生徒指導に係る助言を行った。また、時には算数の授業を行い、授業規律を示すなど生徒指導の視点を重視しながら、児童の学ぶ意欲の向上を図るとともに、中学校への円滑な接続に向けて取り組んだ。生徒指導を始めとする小中一貫教育推進において、市内の先駆けとなった。

また、同校で3年間生徒指導主事を務め、名張市校外生活指導協議会の副会長として連絡調整を行う等、市内小中学校担当者のリーダー的存在となり、市全体の生徒指導の推進に貢献している。

③ 安田 恵理（三重県立鳥羽高等学校 教諭）

本県高等学校教諭として着任し、商業科教諭として教科指導に取り組むとともに、現在校ならではの取組である観光教育の中心的役割を担い、貢献している。特に、観光ビジネス系列の学校設定科目「社会体験実習」において、地域のホテルや物産店と連携してデュアルシステムを導入し、実習を通して社会人として活躍できるよう、キャリア教育の充実に取り組んでいる。

また、授業のみならず、「とぼっこくらぶ」という地域の魅力発信をおこなう部活動において、海女の魅力について調査し、平成29年度には観光プランのプレゼンテーションを競う「全国高等学校観光選手権大会」に出場し、銅賞を受賞した。現在も、鳥羽市定期船課からの依頼を受け、公共交通機関の利用活性化のためのツアープラン企画「地元バスツアープラン・定期船ツアープラン」を鳥羽市役所で発表するなど地域の観光振興に貢献している。

④ 福田 武司（三重県立上野高等学校 教諭）

本県高等学校教諭として着任し、理科教諭として教科指導に取り組むとともに、ICTを活用した教育の充実に努めてきた。令和元年度、現在校が文部科学省の「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）」の指定を受けてからは、SSH主任として、学校設定科目「みらい探究R」の指導方法や評価方法の研究・開発や、コロナ禍においても遠隔で大学の研究室や企業の担当者と交流できるよう一人一台タブレットを活用したキャリア教育の推進等を中心に中心となって取り組んだ。

また、国際科学技術コンテストや科学の甲子園に向け、県内のSSH指定校の生徒が参加する強化講座において講師を担当し、タブレットを用いて高度な内容の講義や実習を高校

生に分かりやすく実施するなど、県全体の理数教育の推進に大いに貢献した。

⑤ 尾宮 紀子（三重県立桑名北高等学校 養護教諭）

本県高等学校養護教諭として着任し、保健教育の充実に取り組むとともに、高い専門性をもって生徒一人ひとりに応じた指導や支援を行ってきた。現在校においては、生徒の問題行動に対する予防的な教育を推進するため、学級担任と連携し、生徒・保護者が来室・相談しやすい保健室づくりに努めた。保健室においては、来室した生徒の服装の汚れなどからネグレクト等にいち早く気づき、コーディネーター的にスクールソーシャルワーカー等につなげ、問題が深刻化しないよう組織的に取り組んだ。

また、同校生徒にとって身近で重要な課題である性に関する指導については、自身の専門的な知識を活かし講演を行うほか、産婦人科医の協力のもと専門家による講演会を企画・立案するなど、生徒の実情や発達段階に応じた教育を推進した。

さらに、校外においても、新規採用及び6年次養護教諭研修や、性教育に係るセミナーの講師を務め、専門職としての知識や経験を説くなど、県内養護教諭の資質向上に尽力した。

(2) 教職員組織

① 松阪市立飯高中学校

平成27年度から平成28年度に国の事業を受け、教育の情報化に取り組み、ICT機器の活用による学びの深まりとコミュニケーション能力の向上を目指した研究実践に取り組んできた。平成28年度の統合後も旧飯高東中から引き継いだICT教育のさらなる充実に取り組んでいる。地域に根差した探究活動を継続して実施しており、「I-HOPE発表会（学習発表会）」では、地域住民や企業、保護者、校区の小学生等を招待し、生徒が追究した課題について、解決方法等を含めてiPadによるプレゼンテーションを行っている。また、小規模校で課題となる対話的な学びについて、同規模校の静岡県榛原郡川根本町立中川根中学校と定期的にZoomにより、意見交換や地域貢献・活性化の取組を共有している。

中学校区の授業公開や市の情報教育担当者会、新聞、HP等において、広く発信することで、県下の地域学習やICT教育に取り組む学校の模範となっており、子どもたちの新しい学びを形成し続けている。

② 北牟婁郡紀北町立潮南中学校

平成28年度から防災や人権等の地域の問題を自らの課題として捉え、地域と連携して課題解決に取り組んでいる。行政・自主防災組織・商工会・大学等との取組はICTを活用して深め、地域にも配信しており、他中学校区にも「潮南中学校モデル」が広まりつつある。防災学習の具体的な活動としては、必要な防災備品の整備や危機発生時の行動判断訓練、避難所運営図上訓練など、地域と連携した取組を続けている。また、人権の取組では、新型コロナウイルス感染者が確認された場合、治療に向き合う仲間と家族の立場に立った行動ができるように、「患者の人権を守る中学生宣言」をまとめて、保護者や地域に呼びかけを行った。生徒たちのメッセージを受け、保護者からも「子どもたちに学び、感染症患者とその家族の人権擁護を」というメッセージが発信された。

同校の実践は、モデル的取組として地域の小中学校の活動に貢献しているとともに、三重県教育委員会のHPにも紹介されるなど県内の教育関係者に広く影響を与えている。